

マチミチ Study 現地勉強会 in 春日部

241111

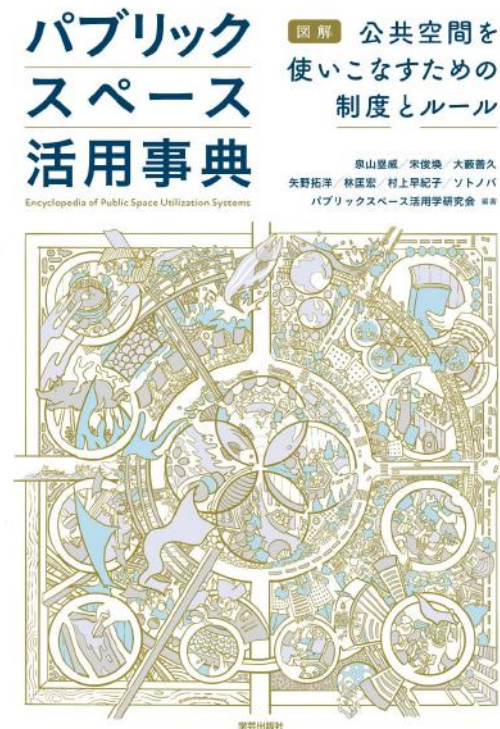


大藪 善久

株式会社SOCI／ソウシ・代表

一級建築士／技術士(都市及び地方計画)
流山市景観アドバイザー

1985年 静岡県生まれ
2010年 東京大学大学院工学系研究科
社会基盤学専攻 景観研究室修了
2010年 日建設計シビル入社
2019年 日建設計シビル退職
2019年 株式会社SOCIを設立



ウォーカブル実践都市(2019～)

豊田市／沼津市／千葉市／堺市／姫路市
つくば市／川崎市／豊島区／大阪市／朝霞市
尼崎市／掛川市／竹原市／茨木市／etc

SOCI inc.

public space design

パブリックスペースの
新しい可能性を拓く



SOCI inc.は新しい時代のパブリックスペースのあり方を模索しながら、
都市スケールから身体スケールまで様々な「場」づくりを行う設計事務所です。

SOCI inc.

public space design

Thinks..

PUBLIC



「公共」を「総私」としてとらえる

PROCESS



「まち」と「わたし」のものがたりをつなぐ

PROTOTYPE



「実践」と「理論」の循環をつくる

2012-2014

姫路市・松山市
姫路駅前広場
大街道・銀天街



2016-2018

豊田市
新とよパーク・とよしば
アーバンファニチャー
矢作川かわまち



2020-

堺市
環濠パブリック実験
池袋リビンググループ
姫路ミチミチ

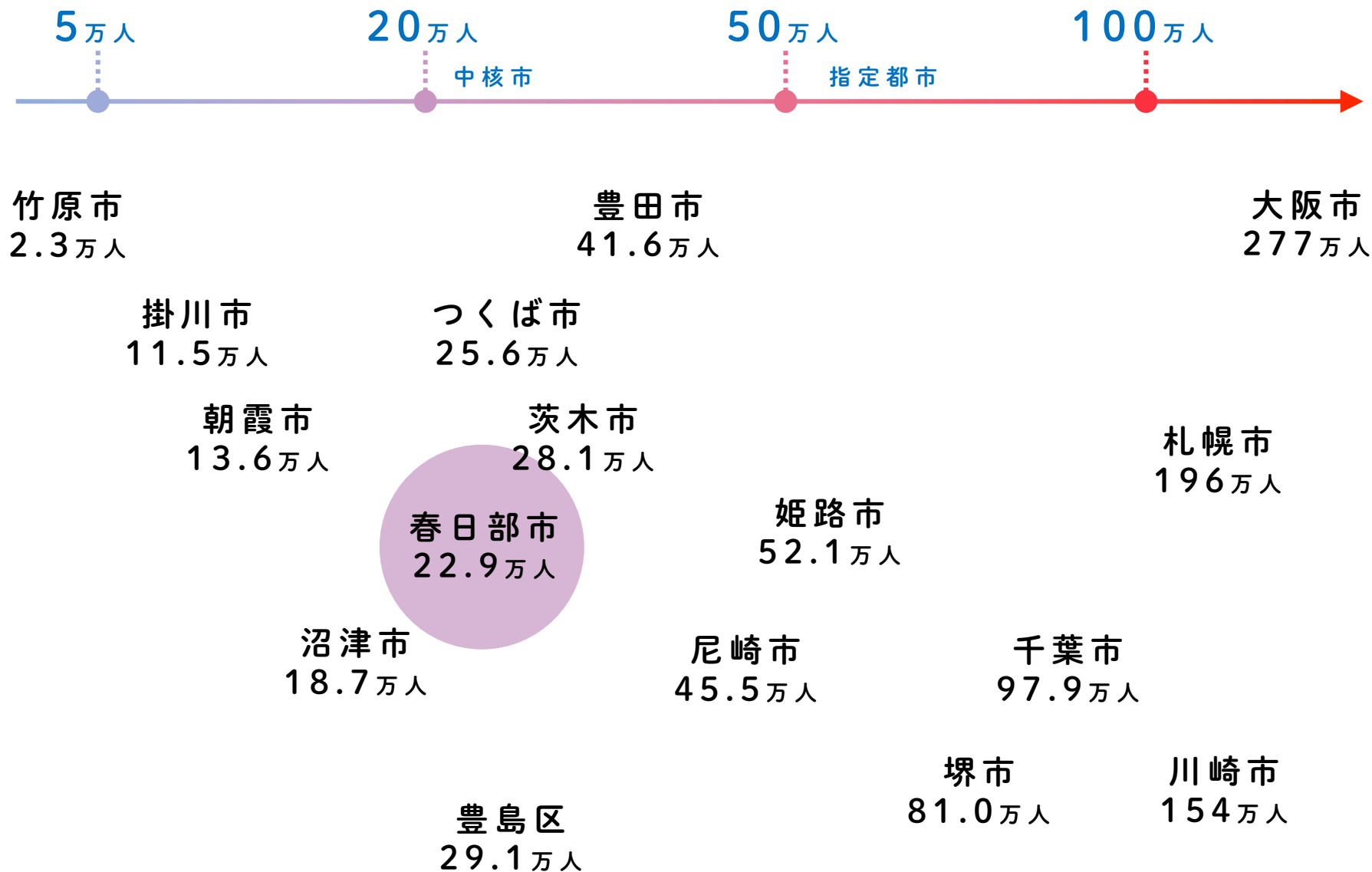


2022-2024

沼津市
まちづくり戦略
都市空間デザインガイドライン
OPEN NUMAZU street
OPEN NUMAZU Parklet



SOCI / ウォーカブル実践都市 (2019~)



CASE

沼津市／中心市街地まちづくり戦略



PLANNING

DESIGN

COMMUNITY
DESIGN

PLACE
MAKING

沼津駅南口駅前広場



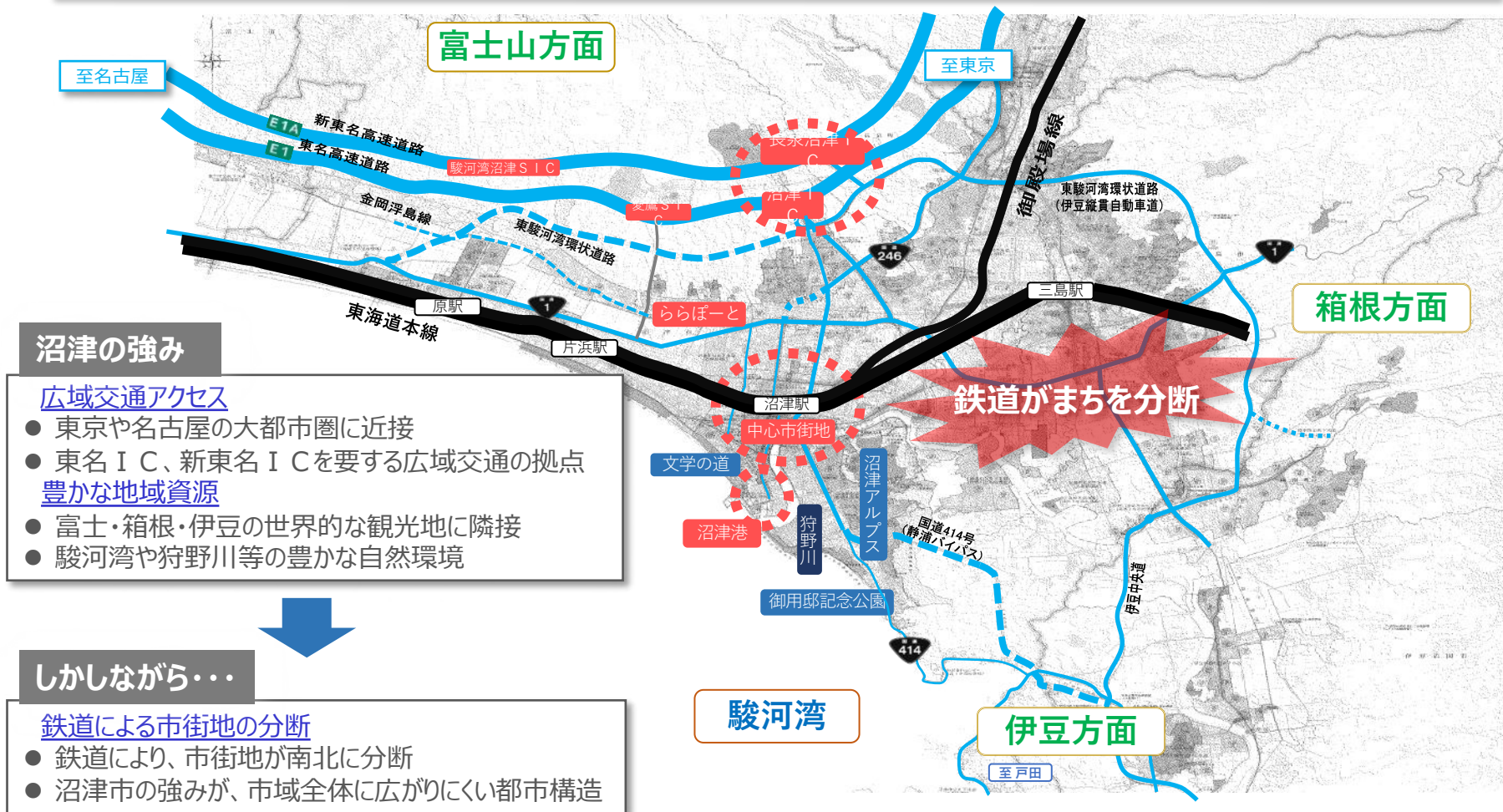
仲見世商店街



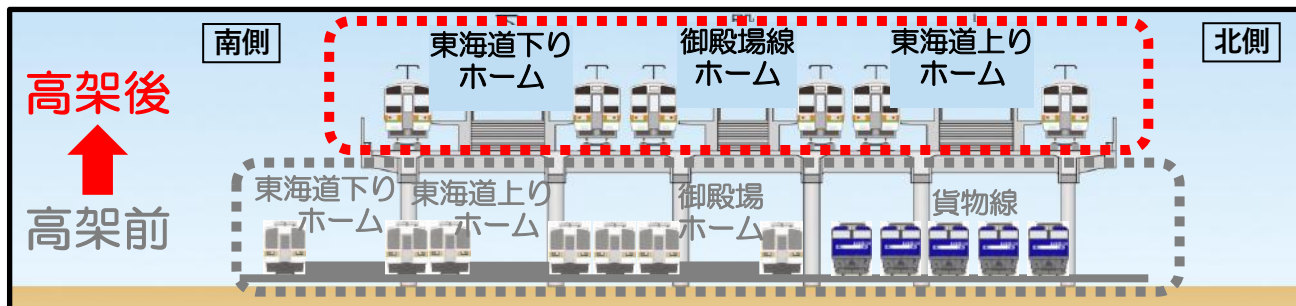
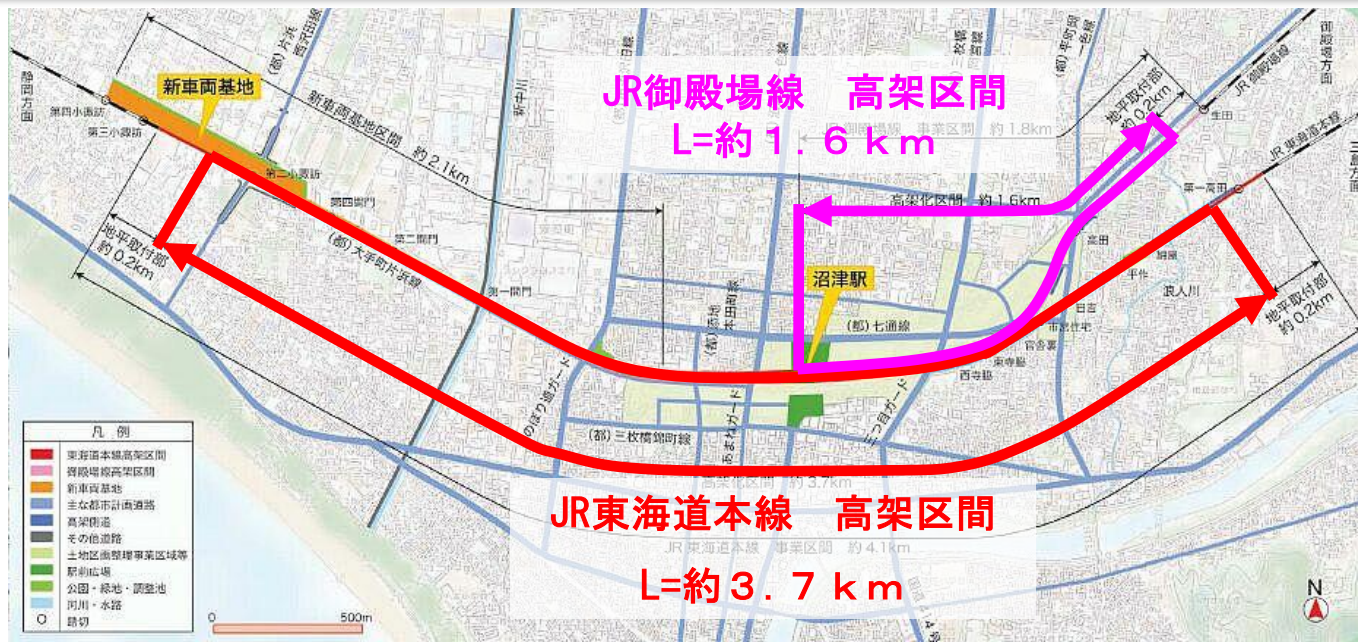
狩野川



市街地の現状（沼津の都市構造から）

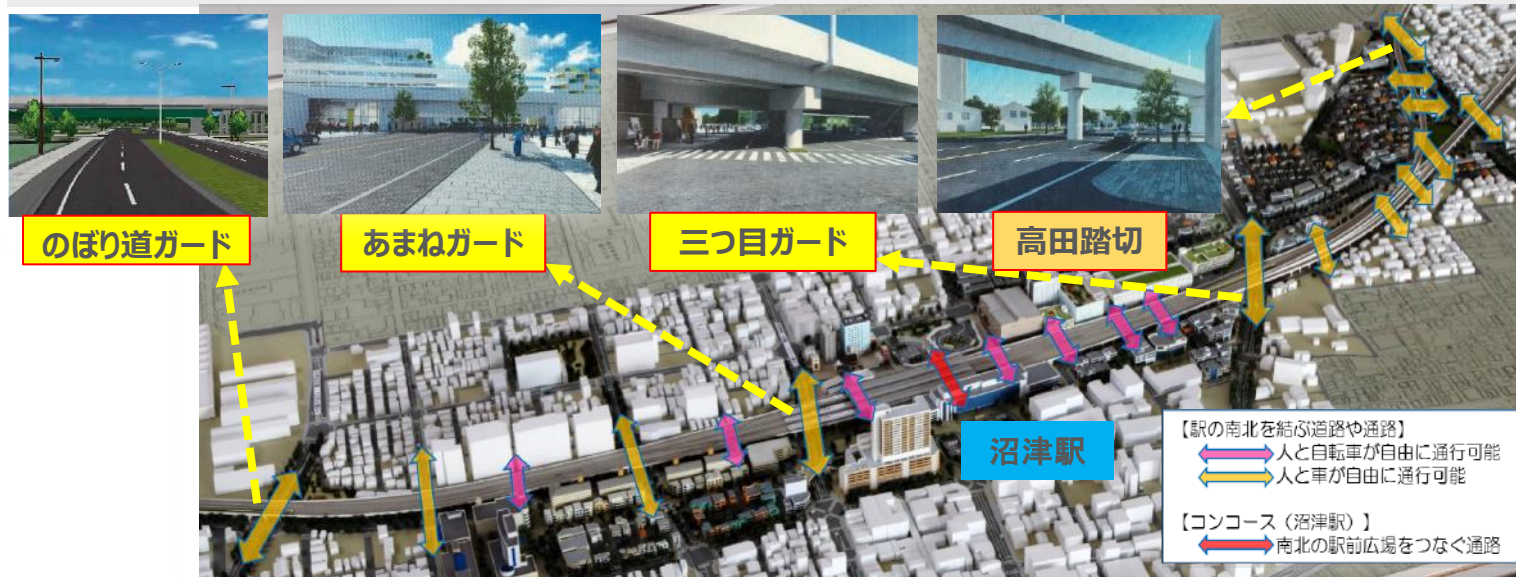


鉄道高架事業



沼津駅周辺での南北交通の改善

- 現在 3 か所あるガードは、全て 4 車線の幹線街路に
- 現在 13 か所ある踏切は、全て除去され安全な街路に
- 新たにいくつかの道路・通路を整備。まちの回遊性が大幅に向上



高架関連道路 (添地本田町線)



高架下利用



沼津駅コンコース



沼津駅南口広場



沼津市中心市街地まちづくり戦略

【戦略のポイント】

- 鉄道高架事業が進んでいくのに合わせたまちづくりの計画
- 沼津駅周辺を車中心からヒト中心の魅力ある場所へと再生する

将来のイメージ



現在の状況



4つの戦略

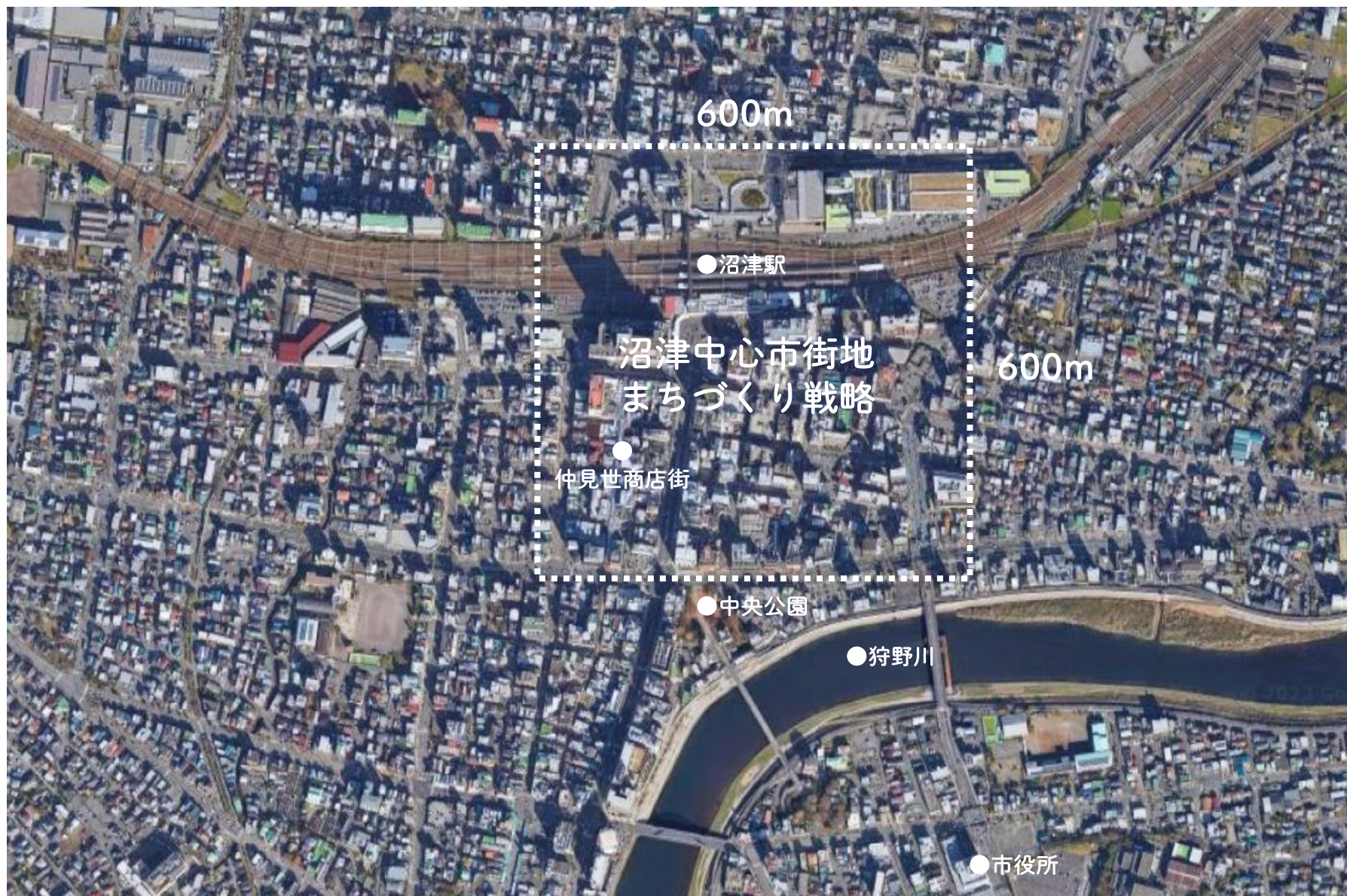
【戦略Ⅰ】
ヒト中心の公共空間の
創出

【戦略Ⅱ】
拠点機能の立地促進

【戦略Ⅲ】
まちなか居住の促進と
市街地環境の向上

【戦略Ⅳ】
周辺地域資源との連携

■ 沼津中心市街地まちづくり戦略（2018～）



■ 沼津中心市街地まちづくり戦略（2018～）

沼津駅周辺にて実施されている鉄道高架化による一連の区画整理や道路整備に伴って、
中心市街地まちづくりとして公共空間の再編と駅前広場の再整備を段階的に目指すPJ。



■沼津中心市街地まちづくり戦略（2018～）

⇒ビジョン・計画づくり・整備
⇒社会実験・プレイスメイキング
⇒地元プレイヤーによる社会実験

2018年度 沼津市／沼津駅南口駅前広場整備方針等策定業務

2019年度 沼津市／H31年中心市街地まちづくり戦略公共空間再編に向けた調査・検討等業務委託

⇒沼津市中心市街地まちづくり戦略の策定

2020年度 沼津市／R2年度中心市街地まちづくり戦略ヒト中心の公共空間創出に向けた空間・交通再編検討業務委託
UR都市機構／令和2年度沼津駅周辺地区まちなかウォーカブル推進に向けた検討業務

2021年度 沼津市／令和3年度中心市街地まちづくり戦略公共空間再編整備計画作成等業務
UR都市機構／R3年度沼津駅周辺地区まちなかウォーカブル推進に向けた検討

⇒公共空間再編整備計画・都市空間デザインガイドライン策定

⇒社会実験「OPEN NUMAZU Street」
＊2022年 4月6日～27日にて実施



■沼津中心市街地まちづくり戦略（2018～）

⇒ビジョン・計画づくり・整備
⇒社会実験・プレイスメイキング
⇒地元プレイヤーによる社会実験

2022年度 公共空間の再編の具体的検討、デザインガイドラインの実践支援

⇒三枚橋錦町線の整備方針策定

⇒社会実験「OPEN NUMAZU Arcade」
* 2022年 10月27日～11月15日にて実施



2023年度 公共空間の再編の具体的検討、Parkletの設計・製作・設置

⇒「OPEN NUMAZU Parklet」の設置

⇒三枚橋錦町線の概略設計



⇒社会実験「OPEN NUMAZU WEEKEND」
* 2022年 10月27日～11月15日にて実施



■沼津中心市街地まちづくり戦略（2018～）



沼津駅周辺総合整備事業を契機に、沼津駅周辺の市街地を、ヒト中心の魅力ある場所へと再生し、多くの市民や来訪者が集い、交流し、住まい、回遊する都市の顔として再構築していくために、まちづくりの施策の方向性を示す。

「沼津市中心市街地まちづくり戦略」
を令和2年3月に策定



■短期・中期・長期のまちづくり



- 南口のバス乗降場を方面別に再編
- 南口駅前街路で、車線数減少・歩行者空間拡大の社会実験
- 公共空間の利活用 他



- 南口駅前広場の暫定整備
- 南口駅前街路の車線数減少・歩行者空間拡大
- 駅前交差点の地上横断化 他



- ヒト中心の駅前広場整備
- 南口駅前街路のトランジットモール化
- 駅周辺回遊動線の整備 他

■公共空間再編整備計画・都市空間デザインガイドライン

中心市街地まちづくり戦略



調査・分析を踏まえ、
どこから、どのように戦略の実現を目指すのか検討

まちづくりシナリオ

中心市街地において取り組むまちづくりの「実践する手順・施策・狙う効果」を描き共有する



まちづくりシナリオを動かすための
アクションプラン・指針を作成



公共空間再編整備計画

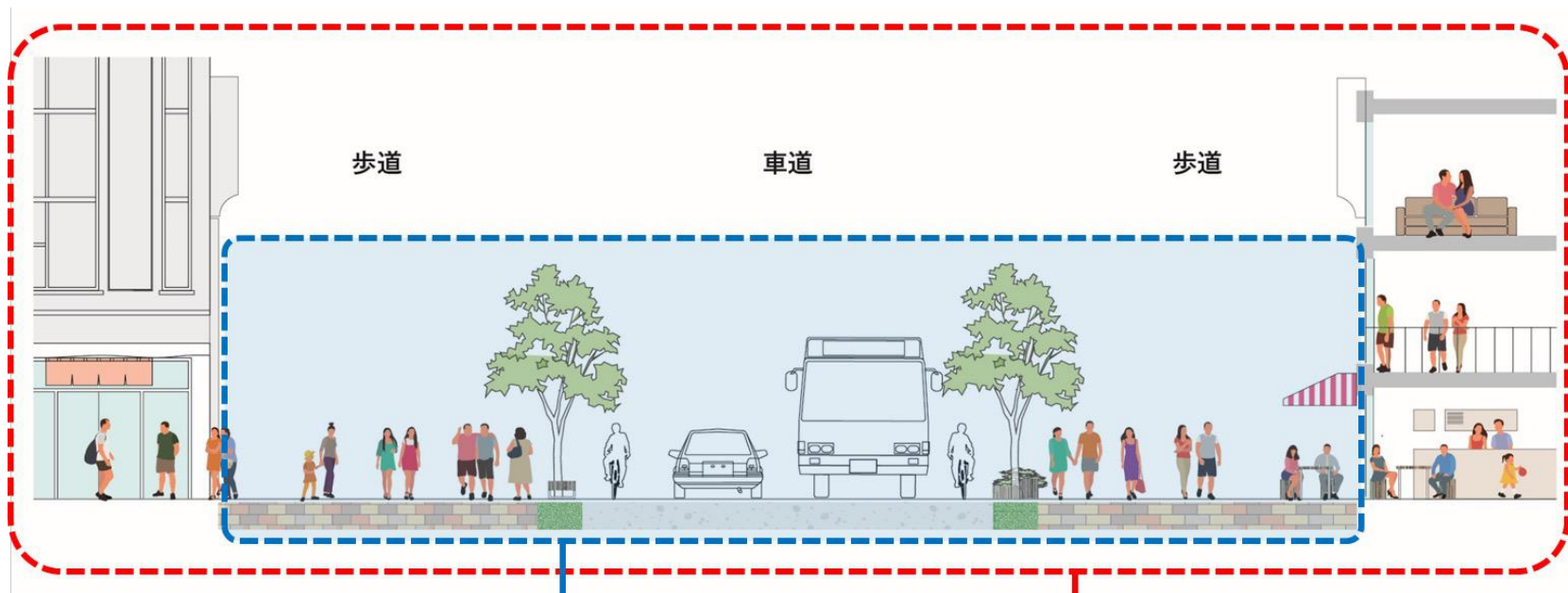
沼津市 が取り組む
中期までの公共空間再編に関する
具体的なアクションプラン

都市空間デザインガイドライン

民間 と **沼津市** が取り組む
民間敷地・建物と公共空間を含む
まちなみづくりのガイドライン

地区全体の戦略づくり
と
官民共に取り組むアクションプラン

■ 公共空間再編整備計画・都市空間デザインガイドライン



公共空間再編整備計画

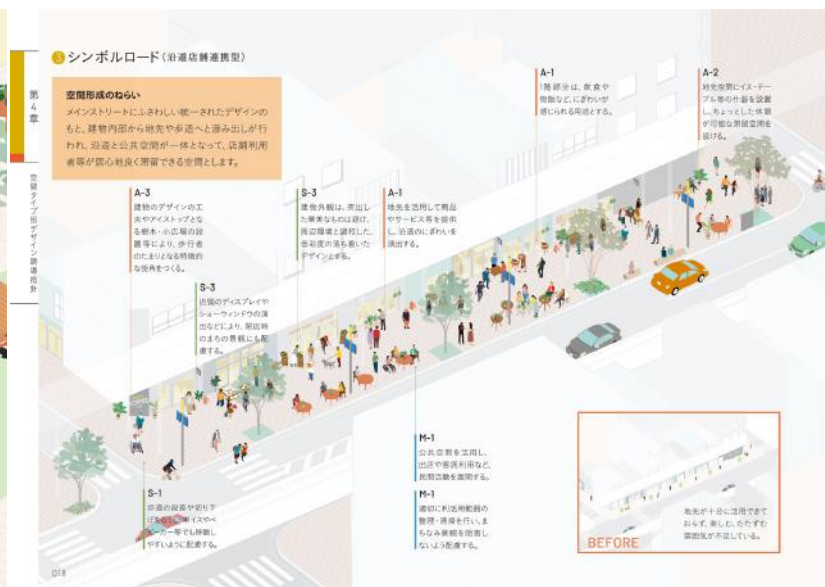
沼津市が取り組む
中期までの公共空間再編に関する
具体的なアクションプラン

都市空間デザインガイドライン

民間と沼津市が取り組む
民間敷地・建物と公共空間を含む
まちなみづくりのガイドライン



都市空間デザインガイドライン



■ 公共空間再編整備計画の流れ

まちの現況分析

プローブパーソン分析

空間特性分析（スペースシンタックス）



まちづくりシナリオ

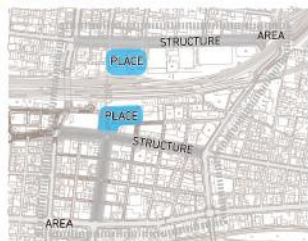
中期のまちの姿を実現するための

戦略的な施策展開のステップ（点・線・面）



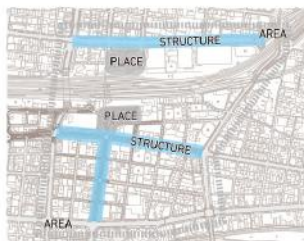
公共空間の再編

駅前広場 居場所(公共空間・広場)の再編



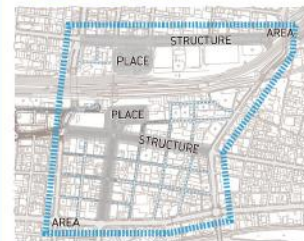
駅周辺やまちなかに“場”を生み出し、人々の集まる拠点をつくります。

駅前街路 骨格(道路)の再編



骨格となる駅前街路の構成を変化させ、ヒトの行き来や活動を物理的にしやすくします。

地区交通体系 交通手段やヒトの回遊の再編

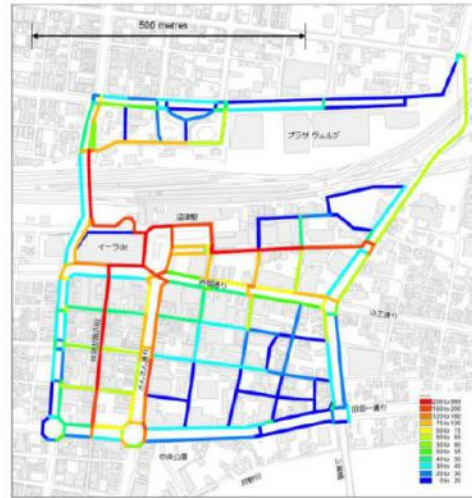


交通手段ごとに通る道路を整理し、歩行者優先に配慮することで、ヒトの回遊を生み出します。

■ 公共空間再編整備計画・都市空間デザインガイドライン

プローブパーソン調査

歩行者交通量の分布

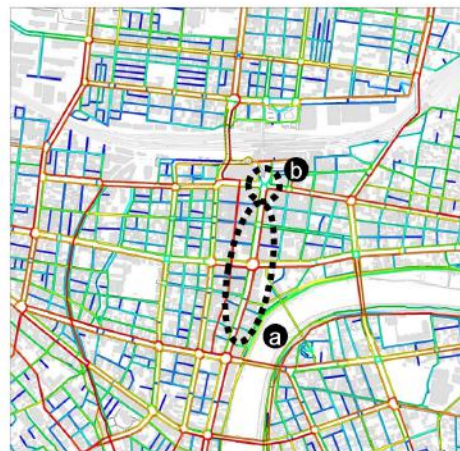


滞在時間の分布（買い物・食事・娯楽）



途中経路としての通り掛かりやすさ

対象範囲内の場所について、総当たりで起終点を選び、最適な経路を選んだ際に、途中経路として何回選ばれるかを示す指標



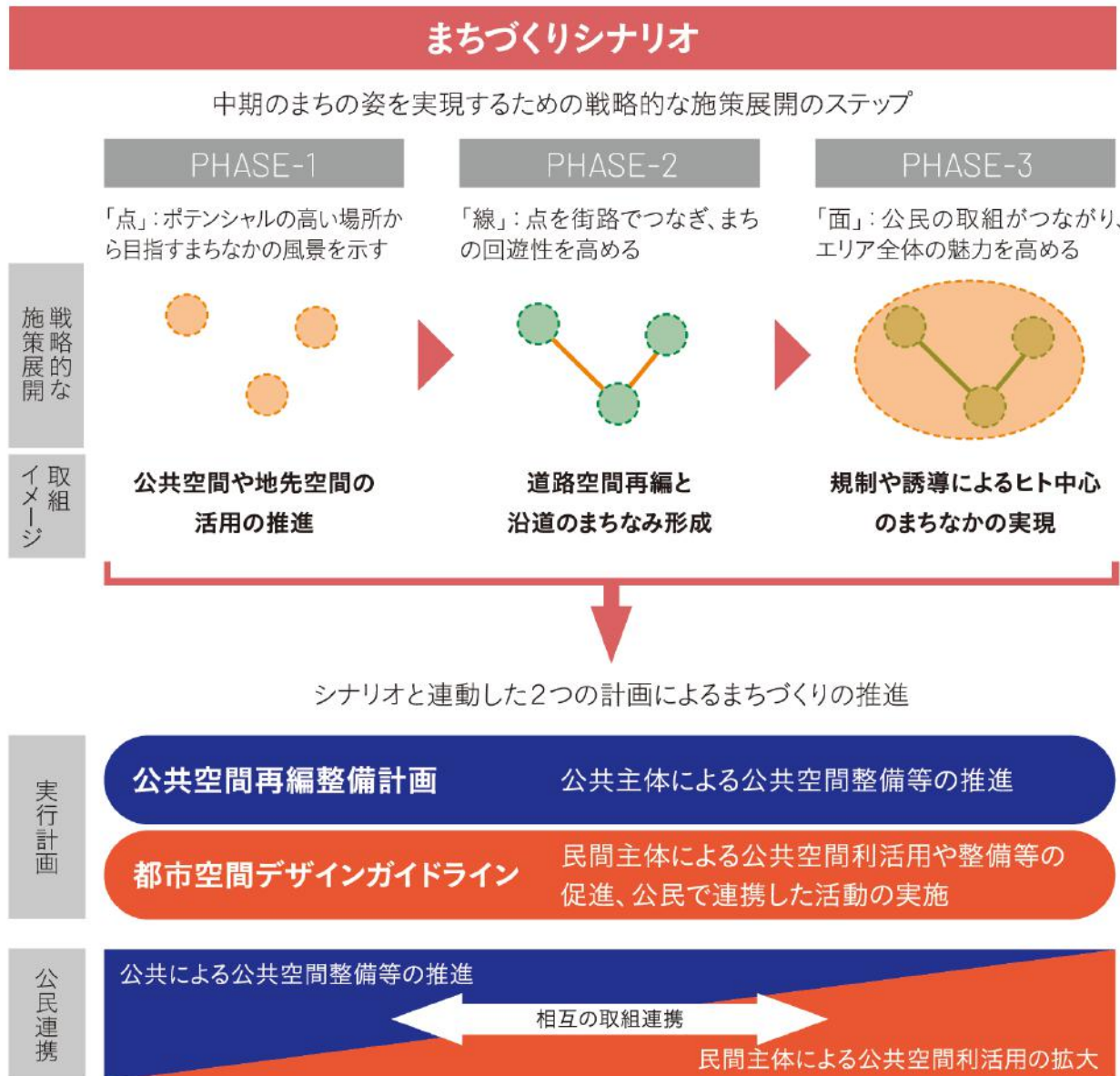
アクセス性指標

ある場所から他の場所に行く際に何回曲がってたり着くのかを平均値で示した指標です。空間ネットワークの中心（樹木に例えると幹）ほど、人が集まりやすくなる。

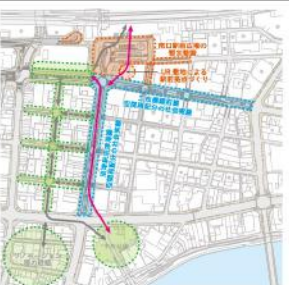


スペースシンタックス

■まちづくりシナリオ



まちづくりシナリオ

点「つかう・つくる」		線「つながる」		面「ひろがる」							
PHASE 1-1(令和3年度～)		PHASE 1-2(令和4年度～)		PHASE 2-1(令和6年度～)		PHASE 2-2(令和9年度～)		PHASE 3-1(令和12年度～)		PHASE 3-2(令和15年度～)	
イメージ											
	・まちなかの貴重なオープンスペースである中央公園での利活用の取組に加え、空間のポテンシャルが最も高い(都)三枚橋錦町線西側区間において車道の一部を歩行者空間化する社会実験を実施する。 ・公共空間の利活用に対する機運やまちの変化に対する市民の期待を醸成する。	・社会実験を踏まえて、(都)三枚橋錦町線西側区間における定期的な地先空間活用を図り、<u>まちなかに新たな滞留・にぎわいスポットを生み出す。</u> ・仲見世商店街周辺で地先空間活用に係る新たな取組を試行し、<u>「(都)三枚橋錦町線西側区間・仲見世商店街・中央公園・旧国1南エリア」</u>へ歩行者の回遊を生み出す。	・南口駅前広場の暫定整備に向けて、一般車乗降場の東西分散化・周辺交通への影響に関する社会実験を実施する。 ・(都)三枚橋錦町線西側区間の再編整備、整備後の歩行者空間の利活用を推進し、<u>駅からの動線及び仲見世商店街・中央公園を含む南北のつながりを強化する。</u>	・南口駅前広場の暫定整備とUR敷地での活動拠点づくりにより、開かれた空間を駅前に創出し、<u>まちなかにヒトの交流によるにぎわいを生み出す。</u> ・(都)沼津駅沼津港線等の空間再配分に向けて、車線数の減少・沼津駅南口交差点の地上横断化に関する社会実験を実施する。	・駅前街路の再編整備、沼津駅南口交差点の地上横断化により、<u>歩きやすいまちなかを実現し、歩行者回遊範囲の面的拡大を図る。</u> ・(都)沼津駅沼津港線沿道と仲見世商店街周辺の連携による空間利活用により、<u>東西方向でのヒトの流れを生み出す。</u>	・回遊環境の向上に合わせて、民間主導による低未利用地の活用や既存店舗の改修などを推進し、取組をエリア全体に広げていくことで、<u>まちなかのエリア価値を高める。</u>					
施策概要・狙い											

■ 公共空間の再編方針／目指す方向性

① 公共空間全体の再編方針

第2章のまちの現況分析を踏まえ、第3章のまちづくりシナリオで生み出す歩行者回遊線の実現に向けて、駅前広場・駅前街路・地区交通体系の再編に取り組んでいきます。

再編に当たっては、対象範囲の公共空間が有する性格に応じて6つの空間タイプに分類し、機能によって整理した目指す方向性を意識して、ヒト中心の都市空間へ転換を図っていきます。

■ 3つの再編項目の方針

<駅前広場>

まちなかで過ごしたくなる、居心地の良い空間へ

<駅前街路>

駅からまちへ、まちから駅へと歩きたくなる街路空間へ

<地区交通体系>

“歩き”を最優先に、安全や使いやすさを意識した交通体系へ

■ 公共空間の性格付けによる分類

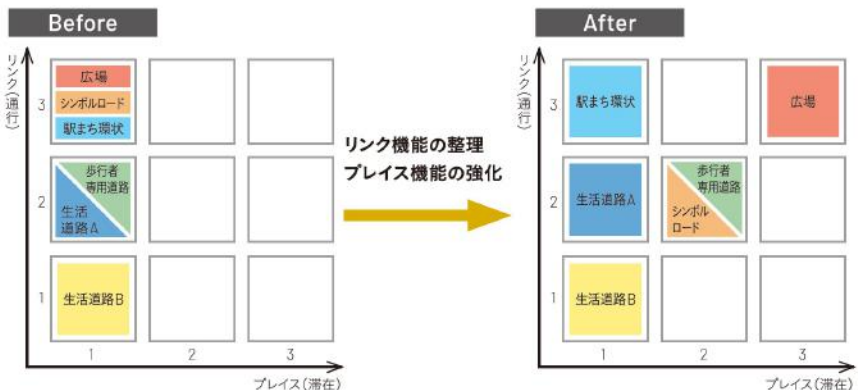


空間タイプのイメージ



■ 目指す方向性

※リンク(通行)機能: 人や物が移動するための機能
プレイス(滞在)機能: 多様な活動を繰り広げる場としての機能



■ 6つの空間タイプ

広場

駅前広場

Before (リンク:3, プレイス:1)

After (リンク:3, プレイス:3)

沼津の玄関口であり、交通結節点となる場所。公共交通の利便性は確保しつつ、新たに生み出されるオープンスペースを有効活用することにより、プレイス機能を拡充する。

地区交通体系

歩行者専用道路

Before (リンク:2, プレイス:1)

After (リンク:2, プレイス:2)

歩行者のまちなか回遊の主動線となる道路。滞留施設の適切な配置などにより、プレイス機能を拡充する。

生活道路A

Before (リンク:2, プレイス:1)

After (リンク:2, プレイス:1)

主に地域住民の日常生活に利用され、自動車の駅まち環状やシンボルロードから各街区へのメインアクセス動線となる道路

シンボルロード

駅前街路

Before (リンク:3, プレイス:1)

After (リンク:2, プレイス:2)

一般車等の通過交通を抑制し、歩行者と公共交通優先とする道路。沿道店舗等と連携し、拡張した歩行者空間の活用等によりプレイス機能を拡充する。

駅まち環状

Before (リンク:3, プレイス:1)

After (リンク:3, プレイス:1)

駅まち環状エリア内を目的地としない自動車交通や自転車交通を受け止める道路

生活道路B

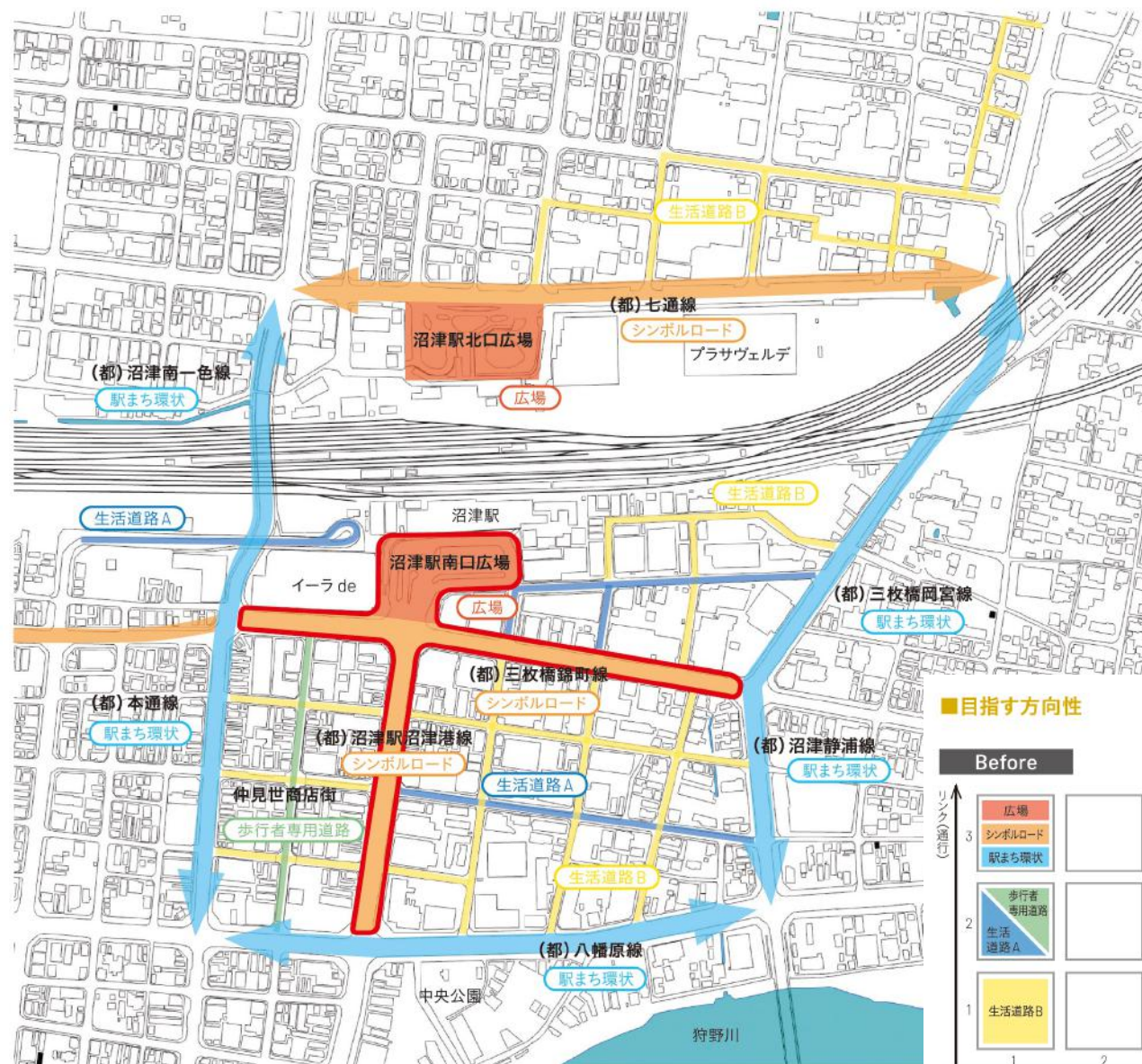
Before (リンク:1, プレイス:1)

After (リンク:1, プレイス:1)

主に地域住民の日常生活に利用され、自動車走行速度の抑制を図り、歩車共存を目指す道路

[illegible]

■ 公共空間の再編方針と連携した、各要素のデザイン方針

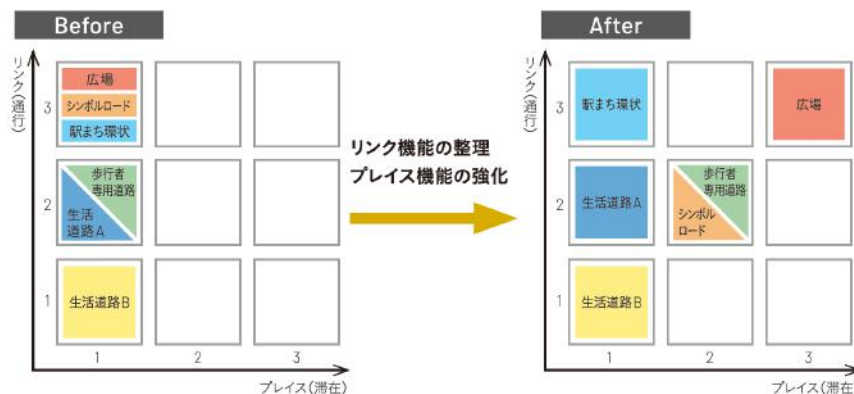


凡例

- 広場
- シンボルロード
- 歩行者専用道路
- 生活道路 A
- 生活道路 B
- 駅まち環状
- 行政による空間再編整備
予定箇所

■ 目指す方向性

※リンク(通行)機能:人や物が移動するための機能
プレイス(滞在)機能:多様な活動を繰り広げる場としての機能



■ 公共空間の再編方針と連携した、各要素のデザイン方針

① 広場



南口駅前広場

まとまったオープンスペースを有する沼津の玄関口。周辺の商業施設と連携し、市民や来訪者の滞在・交流の拠点となることが期待されます。また、空間再編整備が行われることで、ヒトのための空間が拡張します。

② シンボルロード



(都) 三枚橋錦町線



(都) 沼津駅沼津港線

広幅員の道路を有し、まちなかの骨格を成す空間。人々の活動を空間に表出することで、沼津のシンボル空間となることが期待されます。また、空間再編整備が行われることで、ヒトのための空間が拡張します。

③ 歩行者専用道路



仲見世商店街

沼津の商業の中心的な役割を担ってきた歩行者空間。店舗内に限らず、公共空間においても来訪者や商店者等の交流が盛に行われ、引き続きまちなかのにぎわいの中心であることが期待されます。

④ 生活道路A



生活道路A



区画街路のうち主に広い幅員の道路を有し、地域住民等の日常生活に利用される空間。民間敷地の設えの工夫などにより、地域コミュニティ醸成の場となることが期待されます。

⑤ 生活道路B



生活道路B

区画街路のうち狭い幅員の道路を有し、地域住民等の日常生活に利用される空間。通りの閉塞感を防ぎ、歩行者が自動車と共存できる空間となることが期待されます。

⑥ 駅まち環状



(都) 沼津静浦線



(都) 本通線

広幅員の幹線道路によって様々な手段の交通を受け止め、まちなかの外周を形作る空間。沿道の風景から街の入口であることを感じさせる空間となることが期待されます。

■ デザイン方針：（例）シンボルロード

③ シンボルロード（沿道店舗連携型）

空間形成のねらい

メインストリートにふさわしい統一されたデザインのもと、建物内部から地先や歩道へと滲み出しが行われ、沿道と公共空間が一体となって、店舗利用者等が居心地良く滞留できる空間とします。

A-3

建物のデザインの工夫やアイストップとなる樹木・小広場の設置等により、歩行者のたまりとなる特徴的な街角をつくる。

S-3

建物外観は、突出した華美なものは避け、周辺環境と調和した、低彩度の落ち着いたデザインとする。

A-1

地先を活用して商品やサービスを提供し、沿道のにぎわいを演出する。

A-1

1階部分は、飲食や物販など、にぎわいを感じられる用途とする。

A-2

地先空間にイス・テーブル等の什器を設置し、ちょっとした休憩が可能な滞留空間を設ける。

S-3

店頭のディスプレイやショーウィンドウの演出などにより、閉店時のまちの景観にも配慮する。

S-1

歩道の段差や切り下げをなくし、車イスやベビーカー等でも移動しやすいように配慮する。

M-1

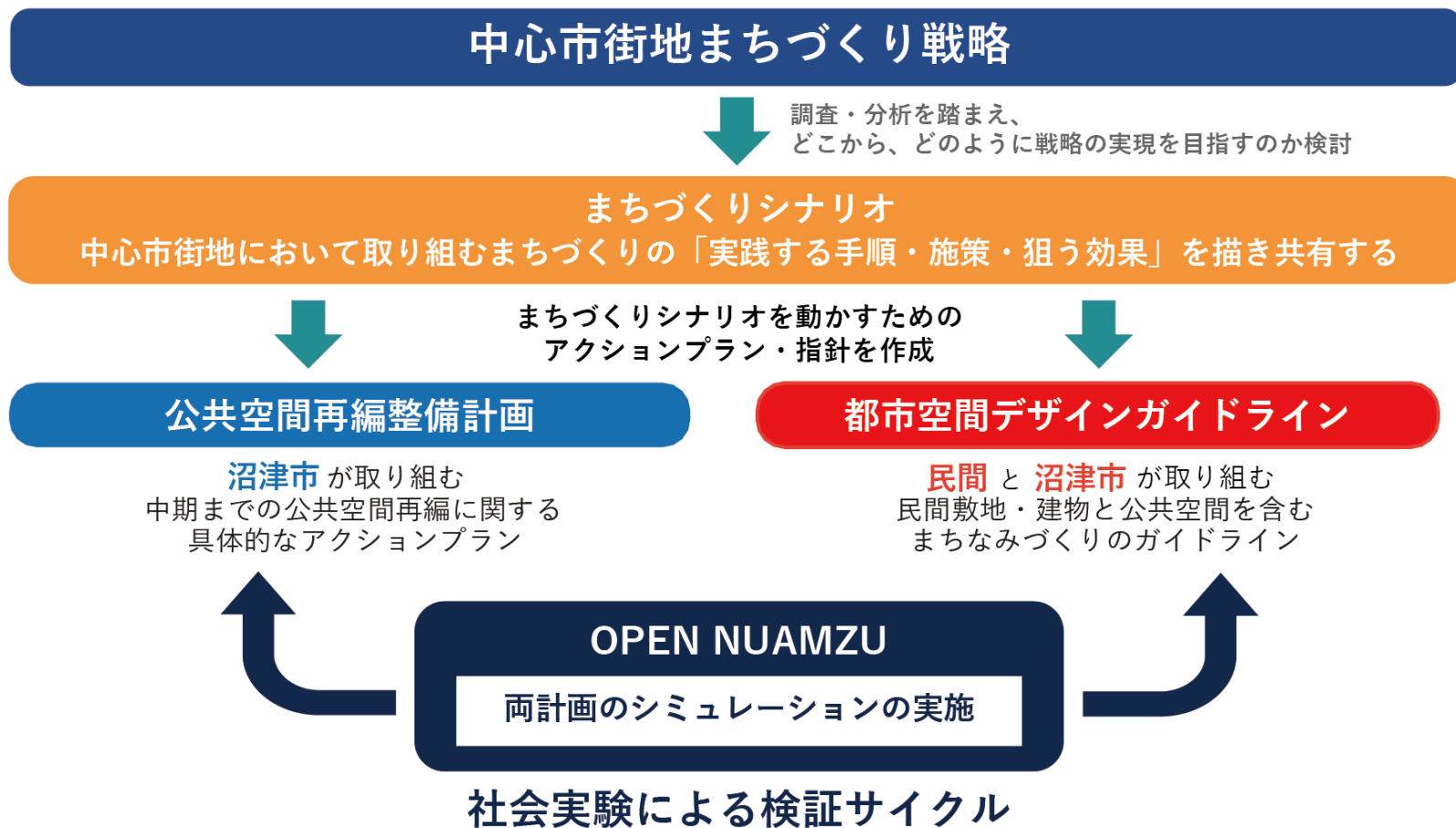
公共空間を活用し、出店や客席利用など、民間活動を展開する。

M-1

適切に利活用範囲の整理・清掃を行い、まちなみ景観を阻害しないよう配慮する。



■公共空間再編整備計画・都市空間デザインガイドライン



社会実験 → アジャイル的な検証システム

■戦略的な検証サイクル「OPEN NUMAZU」

！OPEN！ NUMAZU

「OPEN！NUMAZU」は公共空間をひらくことで見える未来の沼津のまちなかの風景を「日常」へとつなげる実験的な取り組みです。空間をひらくことだけでなく、暮らしの余白を広げ、ひとりひとりが日常を豊かにするためのアクションを起こすことで、未来のまちなかへ近づいていきます。







仮説の検証と成果

01

道路再配分と利活用空間創出における影響及び効果検証

1車線を減少して実験を行ったところ、交通量としては道路の再編が可能な結果となりました。また、利活用空間創出により歩行者交通量等が増加しました。

自動車交通の影響：周辺2交差点は交通量が微増したが、
交通処理能力には余裕がある結果となった

歩行者交通量：最大**約60%増加**

対象エリアの滞留人数：**1.6倍（座る人は3.5倍に）**

02

沼津の将来への期待感を持てる「日常」の風景づくり

日常の風景として、車道上の「くつろぎ空間」は居心地の良さが評価されました。また、実際に会話や飲食等のアクティビティが多く観察され、期間中に利用も増えました。

居心地が良い：**71%**

今後も「くつろぎ空間」を利用したい

：**87%**

（アンケート調査より）



03

地域における公共空間利活用の機運の醸成と、未来につながる仕掛けを埋め込む

市内や近隣店舗への協力により出店を実施し、公共空間のポテンシャルを感じてもらうと共に、市民への周知としてSNSを活用した広報を実施しました。

今回の社会実験へ参加してよかった

：**80%**

（出店者ヒアリングより）



Facebook

リーチ数：**約5.0万人**

Instagram

リーチ数：**約3.6万人**



3

地域における公共空間利活用の機運の醸成と、 未来につながる仕掛けを埋め込む

→ イベント化しないための運営・調査と、今後につながる仕掛け

ビジョン

都市空間デザインガイドライン

民間と沼津市が取り組む
民間敷地・建物と公共空間を含む
まちなみづくりのガイドライン

デザインガイドライン
の実践を市が伴走

民間への展開

地先空間活用チャレンジ
@仲見世商店街など

デザインガイドライン
が実現する未来を示す



オリジナル什器で
実践を援助・空間の質を担保

社会実験



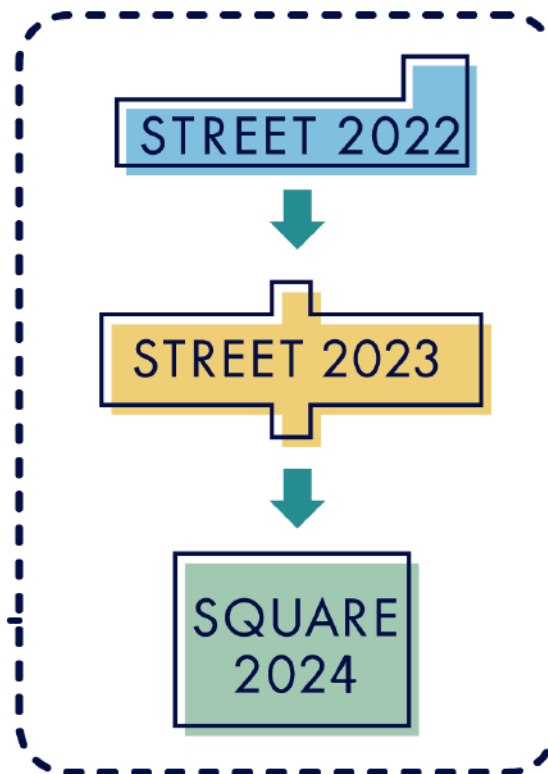
3

地域における公共空間利活用の機運の醸成と、

未来につながる仕掛けを埋め込む

! OPEN !
NUMAZU

STREET 2022



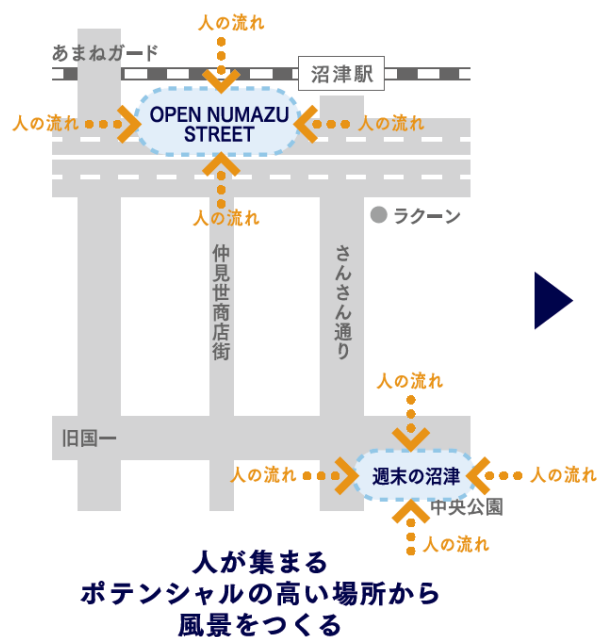


OPEN NUMAZU 2022 ARCADE

下記の期間、沼津仲見世商店街で公共空間活用社会実験をおこないます。

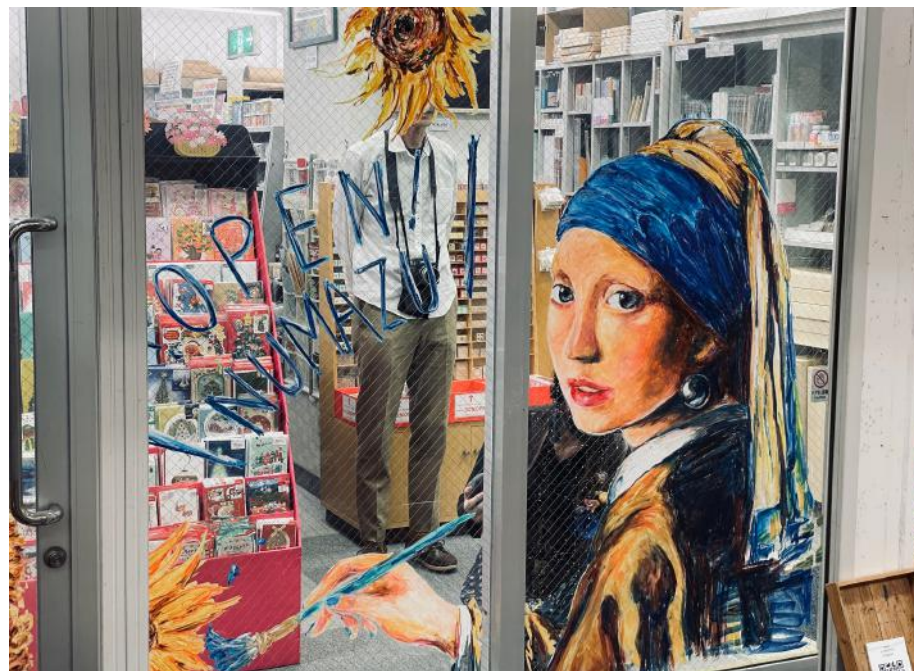
10/27.thu ▶ 11/15.tue
OPEN 9:00 - 19:00

OPEN NUMAZUを通して、
「中心市街地まちづくり戦略」に沿ったエリア回遊イメージを段階的に進めていきます。



沼津市HPにて、目指すまちなかの姿を描いた動画などを公開しています。
<https://www.city.numazu.shizuoka.jp/shisei/keikaku/various/machisenryaku/index.htm>





ヒト中心のまちなかをつくるプロジェクト

\OPEN/ NUMAZU 2024



OPEN NUMAZUは、

まちなかの公共空間を活用することなどで生まれる風景を「日常」へとつなげ、ヒト中心のまちなかを創り出していくプロジェクトです。

昨年実施したOPEN NUMAZUで「人がまちなかで過ごす風景」が定着した沼津仲見世商店街に加えエリアを広げ、さんさん通りの協力店舗の店先にイスや植栽等を設置するなど、まちなかに魅力的な風景が広がっていくことを目指します。また、期間中は出店やワークショップ等を開催することで、居心地の良い空間を演出します。

OPEN NUMAZU 2024は、
さんさん通り・沼津仲見世商店街を中心としたエリアで下記の期間実施します。

2024 11/1.fri ▶ 11/10.sun 2025 1/27.mon ▶ 2/9.sun

*日程は変更となる場合があります



最新情報は右記QRコードをご覧ください。
<https://t.lnk.link/opennumazu>



\OPEN/ NUMAZU 2024



くつろぎスペースは誰でも自由に使える場所です

期間中、さんさん通り・仲見世商店街を中心に、人が過ごしたくなるような滞在空間を設置します。

*設置場所等は変更となる場合があります。



注意事項
・会場は、誰もが使える公共の場です。一人一人がマナーを守り、みんなで気持ちよく過ごせる空間を創り上げましょう。
・ごみは各自でお持ち帰りください。
・会場周辺の駐車場はありません。お越しの際は、公共交通機関や周辺の時間貸し駐車場等をご利用ください。

例えば
こんな
使い方



友達とおしゃべり



テイクアウトで
ランチタイム



ゆっくり読書



買い物や散歩途中の
ひと休み



PC作業、勉強など



お気に入りの店の
前でくつろぐ



出店エリアで
出会う

OPEN NUMAZUを通して、「中心市街地まちづくり戦略」に沿ったエリア回遊イメージを段階的に進めています。



人が集まる
ポテンシャルの高い場所から
風景をつくり(①②)
それらを繋ぐように風景を展開して
回遊を生み出す(③)



点をつなぐように風景を展開し
より広範囲に回遊を生み出す



魅力的な風景が
まちなか範囲に広がる



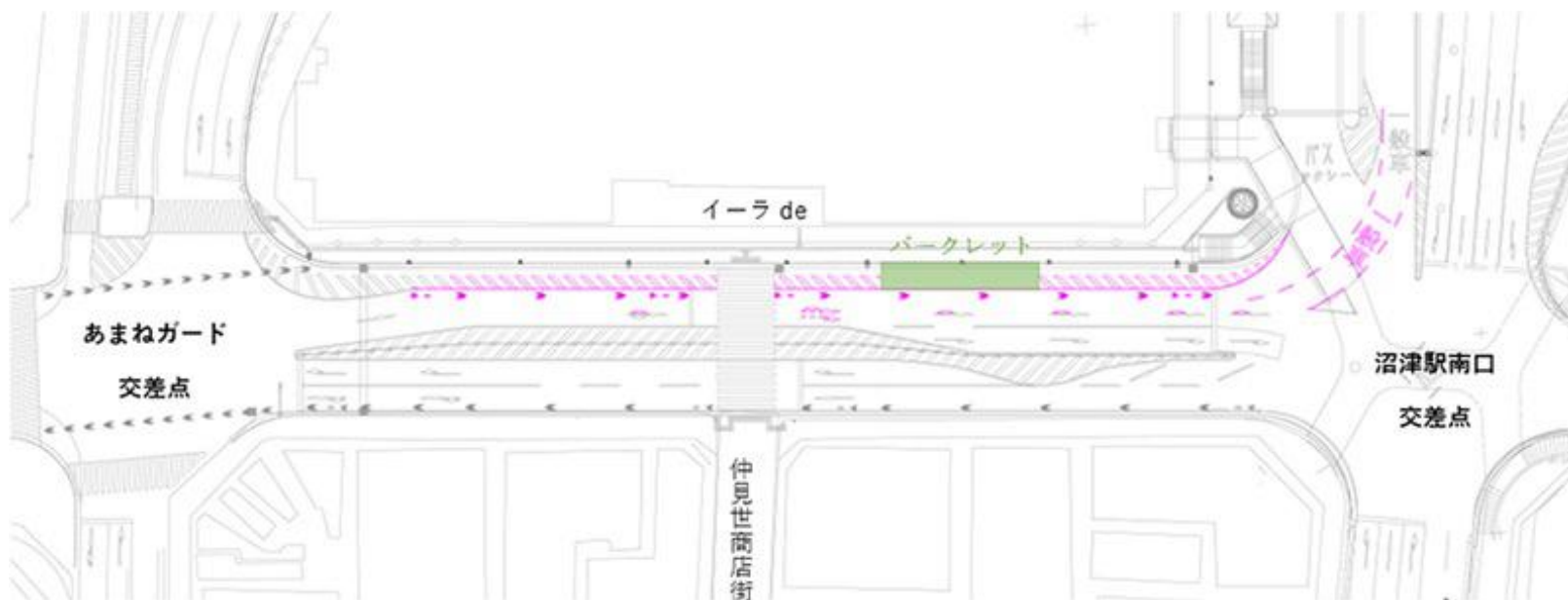


\ OPEN / NUMAZU

+ 空き家活用施策

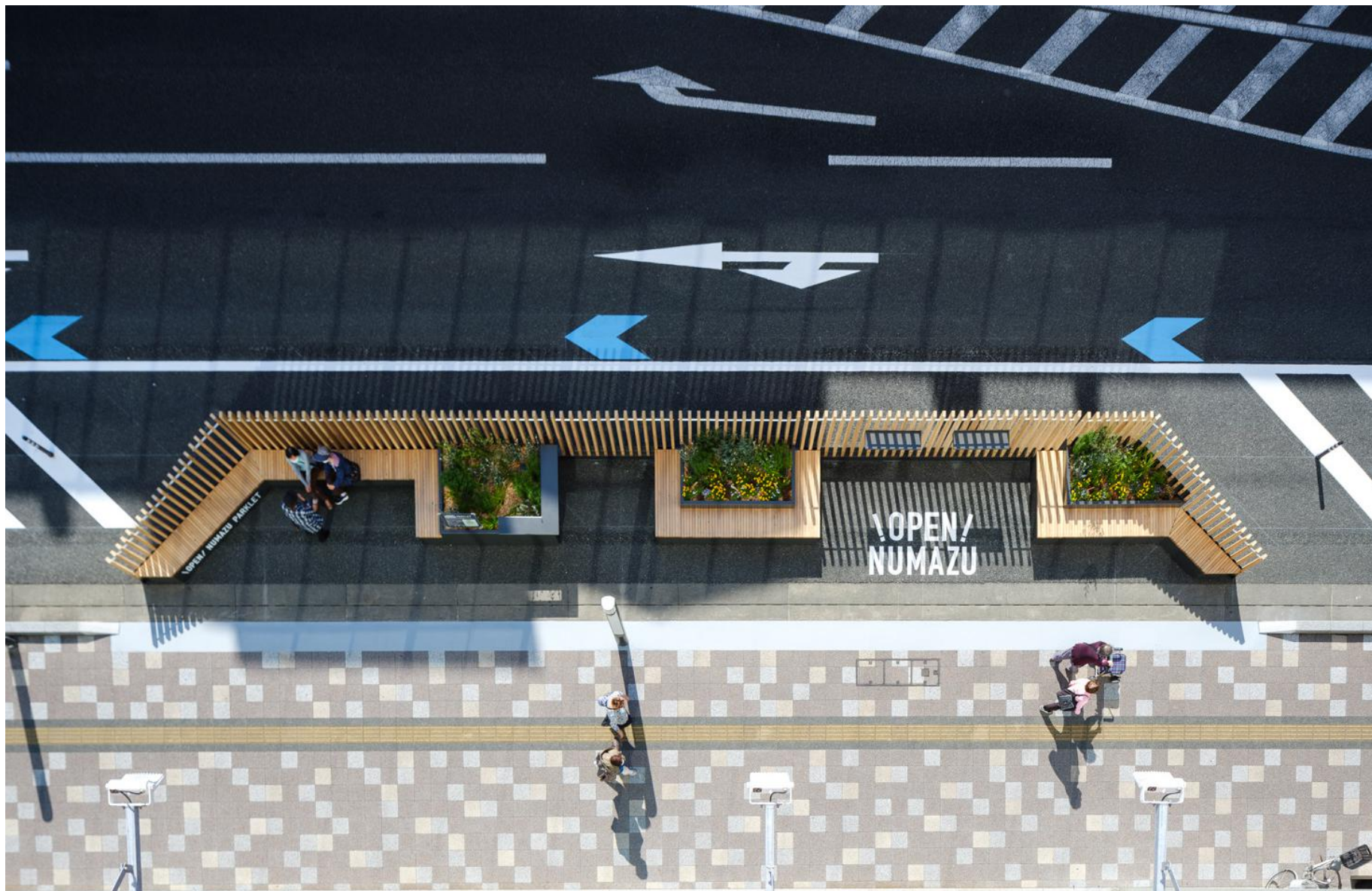


■2023～「OPEN NUMAZU PARKLET」



「OPEN! NUMAZU」のこれまでの実証実験の結果として、
長期間設置のパークレットを三枚橋錦町線に設置しました。

■ 2023～「OPEN NUMAZU PARKLET」



■ 2023～「OPEN NUMAZU PARKLET」





OPEN NUMAZU GREEN PROJECT

OPEN NUMAZU SCHOOL



沼津のまちなかで
やってみたいコトやっちゃおう！

沼津の高校生による公共空間利活用

→12月中旬に実施予定

■連続立体交差事業を契機としたまちづくり

SOCI inc.
public space design

Thinks..

PUBLIC



「公共」を「総私」としてとらえる

PROCESS



「まち」と「わたし」のものがたりをつなぐ

PROTOTYPE



「実践」と「理論」の循環をつくる

■連続立体交差事業を契機としたまちづくり

PUBLIC



「公共」を「総私」としてとらえる

連立事業を契機にまち全体の構造を考える

→まちを測り、人の動きを可視化し、戦術を考える
→ビジョンや戦略の次に、どこから何からどうやって
手をつけるのかのシナリオづくり

→そのシナリオをアジャイル的に見直す

→「まちづくりのシナリオ」を
市民が理解してもらい、乗っかってもらう

■連続立体交差事業を契機としたまちづくり

PROCESS



「まち」と「わたし」のものがたりをつなぐ

「大きいまちづくり」×「小さいまちづくり」

- ハード整備主体の公共空間再編と、
民間主体の取り組みや仕掛けをいかに掛け算できるか
- 沼津の場合は、
中心市街地まちづくり戦略×リノベまちづくり
- まちのものがたりに、いかに「わたし」が関われるか

■連続立体交差事業を契機としたまちづくり

まちづくりの「循環」のシステムをつくる

PROTOTYPE



「実践」と「理論」の循環をつくる

→例えば、社会実験をシステムとして実装する
単発で終わらせないための仕掛けを組み込む

→キャラバンの発想や、プレイヤーで繋ぐ
出店者のメリットを最大化するための仕掛け

→フローではなく、ストック的な発想が大事

→「OPEN KASUKABE」で市民に未来を示す